Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2014.04.16

【お問い合わせ】
Gallery PARC［グランマーブル ギャラリー・パルク］
〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル［ル・グランマーブル カフェ クラッセ］2F
【Tel＆Fax】075-231-0706　【Mail】info@galleryparc.com　【 HP 】http://www.galleryparc.com

KYOTOGRAPHIE international photography festival - satellite event 2014 [KG+] 参加展覧会

Artificial S 2 -Daemon-

麥生田兵吾 : Mugyuda Hyogo

2014年5月6日［火］— 5月18日［日］ 11:00〜19:00　＊月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

【広報画像01】
©Mugyuda Hyogo

ご案内

ギャラリー・パルクでは、2014年5月6日［火］から5月18日［日］まで、麥生田兵吾による個展「 Artificial S 2 -Daemon- 」を開催いたします。

本展は2013年に幕開けし、今年で2回目の開催となる国際写真フェスティバル「KYOTOGRAPHIE」のサテライト展である「KG＋（ケージープラス）」への参加展覧会です。また、Gallery PARCでは同期間あわせ、3つの写真展を連続開催いたしますが、本展はその第三弾となる展覧会です。

麥生田兵吾（むぎゅうだ・ひょうご／1976年・大阪府生まれ）は主題として「Artificial S」を挙げています。「Sはsense＝感覚(感性)」という意味を持つことから、麥生田は「Artificial S.」を「人間の手によりつくられた感性」というような意味として捉えているものです。麥生田はこの主題「Artificial S」を補完・構成する一つの試みとして2010年の1月より、毎日撮影した写真を、撮影したその日のうちに自身のウェブサイト（http://hyogom.com）内の「pile of photographys」にアップする試みを4年以上（現在も継続中）に渡って絶え間なく続けています。これは**「進まねば失い、怠れば後退する、そういった性質の感性ともいえるものを手に入れたい」、「それは瞬間瞬間に、肉体と精神に訪れ過ぎ去っていくもの」、「私はこれを、例えば表現においても、先んずるものにしたいと考えています」**とした麥生田の願いに基づくものであり、それはとりもなおさず「人間（＝麥生田）の手によりつくられた感性」の存在を確認するための行為とも呼べるもので、ここでは「写真」はその照査（証左）としてただ存在しているといえます。

麥生田は主題「Artificial S」を現在のところ5つに別けており、本展覧会ではその2つ目に位置づけられている"Daemon"（ギリシャ神話におけるダイモン＝神々と人間の間に介在する二次的な神）をテーマとして、「**人の心におさまっている正体を定めないイメージを露にする**」ものです。展示されるそれぞれの写真は、いずれも我々が日常で目にする風景の一部がただ「写った」ものであり、それ自体はおよそ「意味」を持つものではありません。しかし、鑑賞者は目の前に在る「写真」を「見る」うちに、そこに「勝手」に「意味のようなもの」を「見たり」「見なかったり」します。

鑑賞者に内在する茫漠としたイメージ（想像）が、目の前のイメージ（図像）を借りて、イメージ（想像や図像や意味）を成すこと。いわば偶像崇拝にも似たこのベクトルが、鑑賞者の目に前にある「世界を写した写真」によって引き起こされる時、私たちは確かにソレ（写真あるいは世界）に出会い、ソコ（写真あるいは世界）に何かを見つけます。ただソレだけのことです。20点あまりの写真がただ在る本展で、皆さんは何を見つけるでしょう。

Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2014.04.16

【お問い合わせ】
Gallery PARC［グランマーブル ギャラリー・パルク］
〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル［ル・グランマーブル カフェ クラッセ］2F
【Tel＆Fax】075-231-0706　【Mail】info@galleryparc.com　【 HP 】http://www.galleryparc.com

KYOTOGRAPHIE international photography festival - satellite event 2014 [KG+] 参加展覧会

Artificial S 2 -Daemon-

麥生田兵吾：Mugyuda Hyogo

2014年5月6日［火］— 5月18日［日］ 11：00〜19：00　＊月曜日休廊・金曜日20：00まで・最終日18：00まで

【広報画像02】
©Mugyuda Hyogo

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名　Artificial S 2 -Daemon- ：麥生田兵吾　＊KYOTOGRAPHIE international photography festival - satellite event 2014 [KG+]参加展覧会

出品作家　麥生田 兵吾 （むぎゅうだ・ひょうご）

会　　期　2014年5月6日（火）— 5月18日（日） 11：00〜19：00　※月曜休廊・金曜日20：00まで・最終日18：00まで

主　　催　Gallery PARC

料　　金　無料

展示内容　【写真】写真家・麥生田兵吾が撮りためた写真およそ20点あまりで構成。日常風景を切り取った写真により、人の心におさまっている正体を定めないイメージ＝daemonをみつけます。

会　　場　Gallery PARC［グランマーブル ギャラリー・パルク］　〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48　三条ありもとビル
【Tel＆Fax】075-231-0706　【Mail】info@galleryparc.com　【 HP 】http://www.galleryparc.com

アクセス　阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。
三条通・御幸町通の交差点北西角［グランマーブル］店舗内2階

問い合わせ　**Gallery PARC（正木・永尾）**
〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48　三条ありもとビル［ル・グランマーブル カフェ クラッセ］2F
【Tel＆Fax】075-231-0706　【Mail】info@galleryparc.com

Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2014.04.16

【お問い合わせ】
Gallery PARC［グランマーブル ギャラリー・パルク］
〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル［ル・グランマーブル カフェ クラッセ］2F
【Tel＆Fax】075-231-0706　【Mail】info@galleryparc.com　【 HP 】http://www.galleryparc.com

KYOTOGRAPHIE international photography festival - satellite event 2014 [KG+] 参加展覧会

Artificial S 2 -Daemon-

麥生田兵吾：Mugyuda Hyogo

2014年5月6日［火］— 5月18日［日］ 11：00〜19：00　＊月曜日休廊・金曜日20：00まで・最終日18：00まで

【広報画像03】
©Mugyuda Hyogo

麥生田 兵吾｜Mugyuda Hyogo

http://hyogom.com

略歴

1976　大阪に生まれる
2010　「THE TOKYO ART BOOK FAIR 2010」（3331千代田ARTS /秋葉原）：「Zine port」の一員としてZineを出品
2011　「THE TOKYO ART BOOK FAIR 2011」（3331千代田ARTS /秋葉原）：「Zine port」の一員としてZineを出品
2011　グループ展　「in the waitingroom」（waitingroom/恵比寿）
2013　グループ展　「溶ける魚 つづきの現実」(京都精華大学ギャラリーフロール/Gallery PARC /京都)

2010年1月〜現在：写真作品「 pile of photographys 」をweb上で更新中

Gallery PARC
GRAND MARBLE

Press Release:2014.04.16

【お問い合わせ】
Gallery PARC［グランマーブル ギャラリー・パルク］
〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル［ル・グランマーブル カフェ クラッセ］2F
【Tel＆Fax】075-231-0706　【Mail】info@galleryparc.com　【 HP 】http://www.galleryparc.com

KYOTOGRAPHIE international photography festival - satellite event 2014 [KG+] 参加展覧会

Artificial S 2 -Daemon-

麥生田兵吾：Mugyuda Hyogo

2014年5月6日［火］— 5月18日［日］ 11：00〜19：00　＊月曜日休廊・金曜日20：00まで・最終日18：00まで

麥生田 兵吾｜Mugyuda Hyogo

主題「Artificial S」。

「S」は「感覚,感性＝sense」という意味を持たせています。ですから「Artificial S」は、「人間の手により作られた感性」というような意味です。

この主題は5つの章に分けられています。今展覧会はその2章目の"Daemon"。人の心におさまっている正体を定めないイメージ＝daemonをみつけます。

たとえば、心をピタッと変わらないままで伝えようとすれば、向うへ届くまでの間でポロポロとたくさんのものが嘘のほうへ落ちていきます。嬉しい事を"嬉しい"と、悲しい事を"悲しい"と、かっちり決まった言葉を使っても、大きい小さいはあるものの喪失感を覚えます。りんごを「りんご」と届けても同じのようです。

写真も同じようなことが起こります。

対象が光学的なものでなければ写真にはできませんが、"このりんご"と"写ったリンゴ（写真）"は異なり、"見られて了解されたリンゴ"もまた異なります。そして写真はリンゴの姿の痕跡として大変強い確かさを与えますから、それぞれ在るはずの差異をみえにくくしています。

言葉も写真も嘘をつきます。

ですがこれも嘘です。事物には嘘も本当もなく、ただ在るだけなのだから。意味などきっとないのです。

私はある精神的にまいった時期がありました。いよいよ心が酷くなった頃に見ていた景色は"意味"がありませんでした。リンゴはただリンゴで、コップはただコップで、りんごとコップに何も違いはなく、その違いのなさにも違いはなかったのです。文字通りの意味のない世界です。

そのような世界で写真は必要はありません。もちろん在ってよいですが写真を発見することはできないでしょう。ですからわざわざカメラを持ち出しシャッターを押す必要などあるわけがありません。完成した世界、静止した世界でした。ただそれを決定しなかったものは命です。私の小さくなった心臓が、静止した世界で動いていました。私は私の生で一番最後となる覚悟をしなければいけませんでした。

私は命を信じます。
命は静止する事から抵抗し、世界を見ます。
見ることで意味を生みだすのです。
見つけるのです。

この世界は不可能で覆われてる真っ暗闇です。しかし命は、手探りする事だって恐ろしい闇をビリビリ切り開いて進んでゆきます。この力は想像力です。

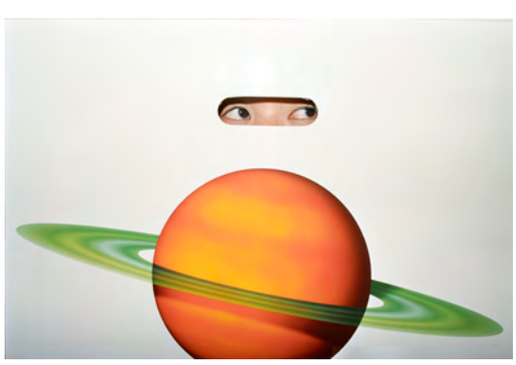
スプーンを持ち上げる事だって、階段を降りる一歩だって、歌うこと、踊ること、これらは全て想像力によるものです。想像力こそが不可能を「ソンナ事ハナイ」と否定し続けられるのものです。（こういった理由から、シャッターを押すという所作からすでに意味を感じていますので、私は写真家と名乗らずにいられません。）

嘘や本当という話しに戻りますと、実はそんなことはどうでもよいのです。ただ、そのどうでもよいことから学ばないといけない事は、言葉がただ言葉であり、写真はただ写真であるということです。私と他者との間にある点「・」、それが言葉や写真です。その「・」は正しかったり正しくなかったりしませんし、だから良いも悪いもありません。ただ、お盆にのったものをドンガラガッシャンとやってしまうような行儀の悪い「・」であればよいなと思っています。

今展覧会の「・」は「daemon」です。みなさんは何を見つけてくれるでしょう。

【広報画像04】
Artificial S #4　2003年

【広報画像05】
Artificial S #木　2003年



【広報画像06】
Artificial S #土星　2004年